平成２９年度　学校評価総括表　伊丹市立こうのいけ幼稚園

教育目標	豊かな心をもって、生き生きと遊ぶ子どもの育成
重点目標	「愛」「自然」「主体性」のキーワードから保育の振り返りを行い、「やりぬく子ども」「やさしい子ども」「創り出す子ども」を育む教育を推進する

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	生きる力の基礎を育む	主体性の育み	・園内研究会を学期に２回程度実施し、研究協議を重ね、主体的な遊びが生まれる保育環境づくりを進める。 ・学期に１回程度、保育実践事例から、保育を振り返り、環境構成や教師の援助のあり方を見直し、教職員の保育実践力を向上させる。 ・研究発表会を実施する。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、子ども達の意欲や主体性が育まれるように努めている」「子どもは、入園前よりも『自らめあてをもち、いきいきと遊ぶ子』に育っていると感じる」「幼稚園は、子どもに経験させたい遊びを工夫して取り入れている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 ・研究発表会の参加者のアンケート結果でよい評価を得る。	A	・講師を招聘した園内研究会を行い、保育を全職員で見直すことで、主体的な遊びを中心として保育活動を行うことができた。アンケート結果は、両設問ともに 95%以上の肯定的な回答があり、幼児の主体性を育む保育の実践に努めていることが評価された。 ・研究発表会の参加者からは、「主体的に楽しんで遊ぶ姿が印象的」「子どもがいきいきとやりたい遊びに取り組んでいた」「主体性を大切にすることで、子どもの学びが深まることが再確認できた」等の肯定的な評価が多くあり、研究発表の成果が得られた。	・今後も主体的な遊びが生まれる保育活動を行っていく。 ・園内研究会は、保育実践力を高めるよい機会となっている。今後も、園内研究会を全クラス共に学期に 1～2 回程度行い、保育の質の向上に努める。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、過日実施された劇遊びにおいても自主的、主体的、個性発揮を重要視された取組を評価する。 ・音楽会、劇遊びでは主体性を生かし子どもの意志を尊重していて良い。 ・職員自身が子ども達の主体性が高まったことを実感できているところが素晴らしい。 ・研究を通し教職員の保育実践力の向上が伺えた。保護者アンケートからも主体性を育てる保育の理解が得られている事、成果の表れかと思う。 ・音楽会や劇遊びは特に主体性を尊重していたのがわかるもので、子ども達がとてものびのびしていた。
		自然環境の活用	・園庭の自然環境を見直し、遊びや生活に必要な多種類の植物を取り入れる。 ・園庭環境を有効活用できるよう、花壇や築山等のあり方を改善する。 ・草花、樹木、落ち葉等、身近な自然物を保育に取り入れていく。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、誕生会や飼育栽培活動、身近な自然環境を取り入れた保育活動等、命にふれる機会を設け、命の大切さを感じさせている」「幼稚園は、施設や設備を有効に活用し、遊びを通して学ぶ場として、子どもが活動しやすい環境を整えている」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。	A	・果樹や草花等を直植えし、環境改善に取り組んだ。また、活用されていなかった花壇の取り壊し、築山の修繕、うさぎ小屋の再利用等、限られた環境を活かす取り組みを行った。落ち葉も遊びに取り入れ、地面の酸性化を防ぎ、自然環境の改善を図った。 ・アンケート結果は、両設問ともに95%以上の肯定的な回答があり、園庭や身近にある自然を遊びに取り入れ、幼児の興味関心を広げ、豊かな体験が行えたと評価された。	・幼児の豊かな自然体験が行えるよう、今後も園庭の自然環境の改善を継続し維持していく。 ・自然物を取り入れた様々な遊びが展開されるよう、教師自身が自然に関する研修を積み重ねていく。 ・自然環境を活かした保育活動での子どもの育ち等について保護者啓発を行っていく。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、幼稚園施設、瀬いつ日を活用した園庭、樹木、そして落ち葉の自然化に取組み子どもたちの創造醸成に寄与していることに対し評価する。 ・遊びの中で自然を取り入れている事で普段体験できない事ができてよい。 ・現在ある施設を活用し、子どもの遊びや生活に活かす工夫はとてもよい取組である。 ・園庭の自然環境が改善され、自由感があり、生き生きと遊ぶ子どもの姿が見られた。一人ひとりに適した環境づくりに努力されている先生方の姿が伺えた。 ・落ち葉や草など取り除くのではなく自然のままにしているのは、子どもたちの遊びの世界も広がる。
	一人一人を大切にする教育	ユニバーサルデザイン化	・個別な支援を必要とする幼児だけでなくすべての子どもの育ちや課題等についての情報交換を行い、職員間で支援や指導の方向性の共通理解を図る。 ・必要に応じて、巡回相談や専門機関等、外部機関との連携を図る。 ・学期に１度以上、関係保護者に個別指導計画の開示及び個人懇談を行う。 ・自園や拠点園での小集団保育を実施する。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、個々の発達や特性に応じた指導を行い、ひとりひとりを大切にした教育を行っている」「子どもは、入園前よりも『人を大切にし、よさや違いを認め合い育ち合う子』に育っている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。 ・自園での小集団保育を学期に１回以上実施する。	B	・職員間の情報交換をタイムリーに行い、理解を深め確認し合うようにしたことで、個別な支援を必要とする幼児への支援方策を丁寧に検討し、保育指導にあたることができた。アンケート結果は、両設問とも 95%以上の肯定的な回答が得られ、一人ひとりを大切にする保育が保護者に評価された。 ・個の状況に応じて巡回相談や教育相談を活用する等、外部機関や専門機関等と連携を行った。関係保護者と折にふれ情報を共有し、子どもの育ちをともに支えた。 ・自園での小集団保育を学期に１回以上実施することができた。	・個別な支援を必要とする幼児だけでなく、すべての子どもについても、今後もタイムリーな情報共有に努め、組織的な支援体制を維持していく。また、関係保護者との連携も密に行い、実態に即した援助を行っていく。 ・ユニバーサルデザインについて、職員研修と実践を積み重ねていく。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、とりわけ支援を必要とする幼児を基準にしたハード、ソフト面で対応が、すべての幼児に繋がるというユニバーサルデザイン化に意を注がれ、重要視されている事は評価できる。 ・クラス関係なく子どもの様子を教えてもらい、また一人一人を大切に見守ってもらい、安心して登園させられた。 ・今後もすべての子どもに目を向け、支援を行っていくことを期待する。 ・すべての子どもの育ちや課題を情報交換し、細やかな対応に努められていた。 ・どの先生も子どもの名前はもちろん、“どんな個性の子”なのか、把握されており、しっかりと見守っておられる。
豊かな心・健やかな体	思いやりの心の育成	生命の尊重・道徳性の芽生え	・動植物の飼育栽培活動を年間通じて行ったり、誕生会等で生命や生きることについて考えたりする等、折にふれて、命の大切さや温かさに気付かせていく。 ・幼児が思いやりをもち、他者の気持ちや考えに気付けるよう、協同的な遊びを計画的に保育活動に取り入れる。また、そのための教師の力量を高める。 ・教師自身の道徳性を常に磨き、人権意識を高める。	・保護者アンケートにおいて、「幼稚園は、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えている」「子どもは、入園前よりも『自分を大切にし、友達や命あるものに思いやりをもったやさしい子』に育っていると感じる」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。 ・教師が年間１回以上、人権研修会に参加する。	A	・幼児が命にふれたり、生きることについて考えたりする機会を計画的に保育に取り入れ、実践した。 ・アンケート結果は両設問共に 95%以上の肯定的な回答が得られ、生命の尊重や互いを思いやる道徳性の芽生えが培われていると評価された。 ・人権研修会に年間１回以上参加し、教師自身の意識改善に努めた。	・飼育栽培活動や生命にふれる保育活動等、計画的継続的に命や生きることについて幼児が様々な遊びや生活を通して学べるようにする。 ・教師自身が生命尊重の精神と道徳観を磨き、幼児のモデルとなったり、日常で折にふれて指導したりしていく。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、幼児にとって大変理解困難な「命や生きること」について教師自らがその取組みに大いに努力をされていること自体に評価する。 ・うさぎの世話をする事で、今まで命の大切さを分からずにいたのに理解するようになった。 ・計画的に取り組んでいるところがとてもよい。 ・生命誕生や不思議さを体験する場を計画的に実施されていた。教師自身の人権意識を高める努力が伺えた。 ・花にあふれた園で、花を愛でることで美しい心、優しい心も育つ。
	健やかな体作り	基本的生活習慣の確立	・幼児が自分の体について関心をもつよう月 1 回保健指導を実施する。 ・年間 10 回、親子で取り組む「げんきカレンダー」を実施する。 ・保護者啓発として月 1 回「ほけんだより」を発行する。	・保護者アンケートにおいて「『ほけんだより』や親子で取り組む『げんきカレンダー』は、健康な生活を意識する機会となっている」「子どもは、入園前よりも「基本的生活習慣や健康な生活について、意識をもち自ら取り組もうとする姿」が見られるようになったと感じる」と回答した割合が、それぞれ85%以上になる。	A	・保健指導、「げんきカレンダー」の実施、「ほけんだより」の発行等は、それぞれ計画通りに実施した。アンケート結果で 90%以上の高評価が得られ、基本的生活習慣の確立に向けた保育実践が評価された。	・今後も園児の実態に合わせて「ほけんだより」「げんきカレンダー」の内容を工夫し、それらを活用して健康に関する情報等を保護者に周知し、幼児の生活習慣の確立を目指す。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、月１回の保健指導、年間１０回の親子で取り組む「げんきカレンダー」によって基本的生活習慣の確立に取り組まれていることに対し評価する。 ・げんきカレンダーへの取組みのおかげで生活習慣を見直すことができる。 ・「げんきカレンダー」は保護者から高く評価された取組になっている。 ・保護者と連携し細やかな配慮のもと、基本的生活習慣の確立に向けた指導が徹底されている。 ・毎月のほけんの話を聞くことで生活習慣・体について少しずつ理解することにつながっている。
開かれ信頼される学校園	教育活動への理解の推進	園情報の積極的な発信	・保護者や地域住民を対象としたオープンスクールを学期に１回実施する。 ・月 1 回以上のクラスだより、学期に１回の園長だよりを発行する。 ・掲示板を月１回更新する。 ・ホームページを行事や活動の都度更新し（月 2 回以上）、写真等で積極的に園の情報を発信する。	・保護者アンケートにおいて、「保育参観や学級懇談、参観ウィークなどは、お子さんの幼稚園での様子を知るよい機会となっている」「園だよりやクラスだより、ホームページや掲示ボード等は、幼稚園での行事や活動の様子、園の教育方針などを知るのに役立っている」と回答した割合が、それぞれ 85%以上になる。 ・ホームページ、掲示板の更新が計画通りに行える。	B	・オープンスクールの実施を通して、保護者や地域住民に、園の様子や教育方針について発信することができた。 ・クラスだより、園長だより、ホームページを活用し、園情報を定期的、積極的に発信することができた。ホームページは、タイムリーな発信に努め、月２回以上更新することができた。 ・アンケートの結果は両設問共に95%の高い評価が得られ、園の教育に対する理解が促進された。	・引き続き、クラスだよりや園長だより、ホームページや掲示板を活用してタイムリーな園情報を積極的に発信していく。 ・オープンスクールを今後も積極的に計画して教育活動を公開することで、幼稚園教育に対する理解を促進していく。	・保護者へのアンケートによる客観的評価において、其々高評価を得ているとともに、既にホームページが解説されており、リアルタイムの情報を提供することができる利便性の高いツールではあるものの、その更新には時間とマンパワーが必要であり、幼稚園業務を熟しながら月２回以上の更新を目標とされていることは評価できる。 ・ホームページの更新が増え、楽しみになった。クラスだよりは様子を知る機会になるので、もう少し発行回数を増やしてはどうか。 ・様々な機会をとらえて園の教育方針をしっかり発信できている。 ・忙しい中、それぞれの立場から園情報を計画的に発信されていた。今後も積極的な幼稚園教育の発信に力を入れてほしい。 ・ホームページは、親がなかなか知らない、家庭とは違う様子も感じられる。
	安心で安全な園作り	危機管理の徹底	・年度当初に安全指導計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画を職員全員で確認する。 ・年に４回避難訓練（火災、地震、防犯、引渡し）及び通報訓練（火災、県警ホットライン）を実施する。 ・毎月１回園舎内の安全点検を実施する。	・計画に基づき、園児への安全指導（幼年消防クラブ活動、交通安全指導を含む）を行う。 ・年４回避難訓練及び通報訓練を実施し、反省点を踏まえてマニュアルを見直す。 ・月１回安全点検を実施し改善点があれば速やかに改善する。	A	・折にふれて園児に安全指導を行い、自ら安全に生活しようとする子どもを育むことができた。 ・避難訓練、通報訓練を計画通りに行い、職員の危機管理に対する意識の向上に努めた。また、毎月の安全点検で改善が必要な箇所が発生した際には即対応し、安全な園作りに努めた。	・安全指導計画、事件事故への対応マニュアル及び防災計画を職員全員が把握しておく。 ・定期的な訓練を実施する中で、様々な状況を想定し、職員の対応等の検証を行い、危機管理意識の向上に努める。 ・月１回の安全点検では、今後も安全面をしっかりと細部まで確認していく。	・安心・安全に係る対策は、多くは予測できない状況からの突如生じる危険に対し如何に行動が取れるかに係っており、それを補足するには、危機管理の為の意識向上、体験、訓練が重要であり、職員の安心・安全への取組みに対し、評価をする。 ・幼年消防クラブ活動は子ども達にとって良い機会になっている。 ・施設課等関係機関と連携した取り組みができている。 ・日頃から安全に関する実施体制の整備がなされている。 ・長期休暇前の先生方の劇のような話などは、子ども達の頭によく残っている。

学校関係者評価総括

・上記のとおり重点目標の各項目における重点項目について、総じて肯定的評価をさせていただいたところであり、今後も改善工夫を凝らしての取組に期待をいたします。なお、幼稚園業務において、多忙極まりない様子が見て取れる中、今後園内での各事業別評価を職員全員で意見交換され、新たな取り組み、不必要な事業の見直しなど、スクラップ・アンド・ビルドの方針で進められることが肝要かと思います。

・子どもにとって１年楽しく、そして入学に向けて成長してきたように思います。「自然環境の活用」では普段なかなかできない体験ができ、遊ぶことで人と接する楽しさ、大切さを学べました。「教育活動への理解推進」では、ホームページの更新が増えた事は良かったと思う反面、クラスだよりが大きな行事の前の配布と少なく感じ、園での様子は分からないので、もっとこまめに発行していただければと思いました。一年、去年とは違う、園の雰囲気に子どもも毎日楽しそうに登園していました。

・園の考えが保護者にきちんと伝わっており、すべての項目において好評価を得ている。

・先生方が愛しさを持って主体的な遊びが生まれる環境づくりに努められたこと、感謝する。今後も、教職員が連携し子どもを中心に据えた幼稚園教育に取り組まれること、期待する。

・子供達をたくさん見守っていただいた一年だと思います。すべての先生が子どもたちの精神状態や状況などを知っておられて、その時に応じた保育をしていただけたと思います。先生方が情報を共有されていることが感じられました。

次年度に向けた重点的な改善点

・幼小連携に関しては、定期的な交流と教職員間の意見交換を行う場を持つなど、幼稚園と小学校との組織的な連携の取り組みを行うこと。

・限られた広さの園庭でありながら、木にロープやはしごを掛けたり、うさぎ小屋を“ままごと小屋”にしたりなど、子どもたちの遊びの世界が広がり、とても楽しく子どもたちも“次はこんな遊びをしよう”と遊びをとおして考える力がつく幼稚園である。今後とも子どもたちが“こんなことも出来る”、“こういう遊び方もあったね”など、学びが沢山生まれる幼稚園づくりを推進すること。

自己評価の基準　　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った